

第2期第4回 横浜市市民協働推進委員会 会議録	
日 時	平成28年3月24日（木）午後5時03分から8時45分まで
開催場所	横浜市市民活動支援センター4階セミナールーム1
出席者	小濱哲委員長、時任和子委員、中島智人委員、松岡美子委員、酒井正樹委員、松村正治委員、治田友香委員
欠席者	三輪律江委員
開催形態	公開（傍聴者7人）
議 題	<p>審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 特定非営利活動法人の条例指定について</li> <li>イ 平成27年度横浜市市民活動支援センター事業の評価・検証について</li> <li>ウ よこはま夢ファンド団体登録及び助成金交付審査結果について</li> </ul> <p>協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 「横浜市市民協働条例」3年ごとの施行状況の検討の進め方について</li> <li>イ 平成28年度市民協働推進委員会での審議・協議事項について</li> </ul> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 平成27年度協働の「地域づくり大学校」事業 事業報告について</li> <li>イ 特定非営利活動法人に関する基礎調査実施結果について</li> <li>ウ 認定特定非営利活動法人への勧告に対する報告について</li> <li>エ 答申後の取組の周知について</li> </ul> <p>その他</p>
議 事	<p>1 開会</p> <p>（小濱委員長）皆様、本日は御多忙のところ、お集まりいただきましてありがとうございます。これより第2期第4回横浜市市民協働推進委員会を開会いたします。</p> <p>本日の出席状況ですが、三輪委員が都合により欠席、酒井委員が18時ごろ到着という連絡が入っています。治田委員ももう間もなくいらっしゃると思います。5人の出席で過半数の出席がありますので、市民協働条例施行規則第8条第2項の規定による充足数を満たしておりますので、委員会が成立していることを確認いたします。</p> <p>それではお手元の次第に従いまして議事を進行してまいります。はじめに、前回の会議録を確認します。事務局から説明をお願いいたします。</p> <p>（事務局）資料により説明</p> <p>（小濱委員長）ありがとうございました。ただいま御報告いただきました前回の会議録につきまして、何か御質問、御意見はございますか。では、前回の会議録につきまして御確認いただいたということにさせていただきます。</p> <p>2 議題</p> <p>（1）審議事項</p>

ア 特定非営利活動法人の条例指定について

(小濱委員長) それでは審議事項に入りましょう。まずはアです。「特定非営利活動法人の条例指定について」、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 資料により説明

(小濱委員長) ただいまの説明につきまして何か御質問等ございますか。それではただいま説明がありました、特定非営利活動法人ワーカーズわくわくにつきまして、指定に向けた手続をすることが妥当であることで了承いただけますでしょうか。

(了承)

(小濱委員長) ありがとうございます。ワーカーズわくわくの皆さん、これからも積極的に活動していただければと思います。頑張ってください。

イ 平成27年度横浜市市民活動支援センター事業の評価・検証について

(小濱委員長) では、続きましてイです。「平成27年度横浜市市民活動支援センター事業の評価・検証について」、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 資料により説明

(小濱委員長) ありがとうございます。ただいま説明いただきました検証の趣旨、進め方、事業評価につきまして何か御質問はございますか。

では、事業実施団体の方々に平成27年度の事業報告と平成28年度の事業計画につきまして御説明いただきまして、その後質疑応答を行いたいと思います。では、事務局で進行をお願いします。

(事務局) まず運営事業の実施団体を御紹介させていただきます。特定非営利活動法人市民セクターよこはま様です。準備が整いましたら、平成27年度の事業報告及び平成28年度の事業計画の説明を20分をお願いいたします。なお、1分前にベルを鳴らせていただきます。それでは運営事業の評価を進めさせていただきます。よろしくをお願いいたします。

(市民セクターよこはま) 資料により説明

(事務局) ありがとうございます。委員の皆様から御質問等、20分をお願いいたします。

(時任委員) たくさんの事業の御説明をありがとうございました。区民活動支援センター職員等とのネットワーク会議の成果の1つとして、Q&A集を作成されたということですが、どこかで見ることはできるのでしょうか。

(市民セクターよこはま) このQ&A集は、まだ公開しておりません。今後は、これを基にしてブックレットのようなものにできないかと考えております。

(時任委員) 完成した暁には、見せていただければと思います。

(中島委員) ありがとうございます。マネジメント支援ですが、相談対応のところで、いろいろと研修をやられて、一方的に情報を提供するだけでなく、学び

合いの機会をつくられていることはすごく有効だなと思いました。それと同時にプレゼンテーションの中で派遣もやられているということがありましたが、それについて少し具体的に、例えばどういう団体に行っているのかとか、どういうアプローチをしているのかとか、何か説明はありますか。

(市民セクターよこはま) こちらはアドバイザー等派遣事業ということで、アドバイザーというのが具体的に申し上げますと税理士、社会保険労務士、そしてその他として現場のマネジメントの経験のある方という枠でありまして、今年度も9件ほど申請がありました。助成金事業となっているので、例えば税理士に会計について御相談したいという場合は市民活動支援センターに申請いただいて、そのうち1回目は5000円を、2回目は7000円を、3回目1万円をと団体側に負担していただくものです。このように一部団体に負担いただく形で、税理士あるいは社会保険労務士等を市民活動支援センターが仲介し、派遣日等も調整し、実際に税理士、社会保険労務士等が団体の事務所にお伺いして相談に対応いただくものです。団体の事務所にお伺いすることで、団体のあれもこれもと聞きたいところに対応していただけるといったところでも非常にいい事業なのかなと感じております。

(中島委員) スタッフの方が現場に行く機会はあるのでしょうか。

(説明者) このアドバイザー派遣事業は、市民活動支援センターの担当が現場に必ず同行しております。市民活動支援センター職員が、税理士、社会保険労務士と団体の間に立って調整したり、現場に同行して活動の状況、経営の状況なども実際に聞かせていただくことで、職員の育成にも大変役立っていると思います。

(中島委員) そういういろいろと課題が明確になっている団体とか、設立からマネジメントとさまざまなステージにある団体の支援について説明して下さって、幅広く支援をやられているのはすごくよく分かりました。今横浜市として、もしくは横浜市の現状から市民活動支援センターとして、何かターゲットとして明確にしている層みたいなものはあるのでしょうか。

(市民セクターよこはま) お手元の計画書の5ページに支援マトリックス図を作成しております。マネジメント講座を進めるうちに、立ち上げすぐとか準備段階の団体に対しては、支援が薄いと感じており、市民活動支援課からも同様の指摘がありました。今年度は、経理面で基礎講座の開催や、知っ得セミナーという、立ち上げ間もない団体向けの講座について、重点を入れて取り組んでいます。

(松村委員) 御説明ありがとうございます。市民活動共同オフィスにはどんな課題があるのかということについて、お聞かせいただければと思います。

(市民セクターよこはま) 馬車道にこの市民活動共同オフィスがあった時代から通算して12年以上取り組んでいます。以前は、物理的にも有線電話を引いて、事務所というものを持ってという時代でしたが、今や携帯電話を持って、どこでもパソコンで仕事ができるという時代になっています。働き方が変化しても、団体同士の出会いといった機能としてまだ期待されているのかなというところは様々な場面で見

えてはくるのですが、固定したブースで仕事や活動をするというニーズはやや落ちてきているのではないかという実感を持っています。

(治田委員) ありがとうございます。2つあるのですが、1つはいろいろな講座やイベントなどで、点数をつけていますが、あれはどういうふうにしていらっしゃるのですか。5段階評価でやっているのかとか、あと非常に満足度が高いのだけど、課題はないのかなみたいなところを教えていただけたらと思います。

(市民セクターよこはま) この方式はI I H O Eという団体の川北さんが推奨されているものです。あなたの期待度に対して今回の講座はどうでしたかという聞き方をしています。単純に満足しましたかという、受講される方をお客さんにして聞くような聞き方ではなくて、講座を受講した方自身が自分自身にもある意味問われるところが入ってくると思います。アンケートにおいて、この点数評価の設問の下には、必ずその理由を教えてくださいという設問を設定しています。この設問を設定することで、たとえば90点など点数を高く書いていただいた方でも、もう少しこうしたらいいといったようなことを書いていただけます。そうすることで、連続講座であれば、1回目のマイナス要因を聞いて、2回目のときにそこを改善する、3回目に改善するということを行うためにこのような聞き方をしています。ただ、「P R O N P O」という講座のアンケートは1講座を除いて全部90点以上ということになっており、特に97点というのがあるのは、本当のところどうなるだろうとは思いますが、でもそれは結局、つながりをつくるワークとか時間をたくさんつくる中で、自分自身も相手に貢献するという感覚がどんどん自分自身の中に育っていくようなつくりをしていくのですが、その結果、受け身で聞いただけだったらあの点数にはならないと思います。講座の先生に対して「ちょっとここが」とか言いたくなるのが人情なのですが、全体のワークとか自分自身の貢献が有効に働いたときには、もしかしたらああいう点数が出るのかなと考えたりしております。

(治田委員) 私どもがやっている講座でいうと、どちらかというともっと厳しいので、満足しただけではなくて本当に自分自身が社会を変えられるのかとか、そこまでのアプローチができるのかというようなことも必要です。要は聞いてお徳ただけとか、そのときは楽しいのだけど、帰った後どうしようもなくなってしまうケースがあって、そこまで追いかけるとすると、もっと横浜市として、こういうNP Oが求められているというところまで見えてくるのかなと思いました。意見として受け取っていただければと思います。

(市民セクターよこはま) 確かにそうで、アンケートの結果と事業の成果とは全く違うと思っています。これから自分がどう行動していくかというところはまた別のアンケートやまとめの段階でやっておりまして、その部分の検証は今日お出しできませんでしたが、確かにおっしゃるとおりですので、今後やっていきたいと思います。

(治田委員) あわせて、今すぐたくさんの方の事業をやっていらっしゃると思います

が、この団体はすごく伸びたというところや、今まで全然目立っていなかったけれども、いろいろな講座を受ける中で、こんなふうに伸びたという事例があれば、具体的なNPOの伸びた事例として御紹介いただけたらと思います。

（市民セクターよこはま）横浜移動サービス協議会という団体の職員が「PRO NPO」講座を受講されていました。講座には、発表などもあるのですが、初めは不慣れな感じで資料が作ってあって、顔も上がっていませんでしたが、6回の連続講座の中でどんどん変わっていきました。その方はその後、事務局次長にもなられて、別の機会で発表されていたのですが、自信を持って移動サービス協議会のことを語っていました。その方の例が一番如実に効果があらわれた例だと思っています。この講座には、子育て支援拠点の方もたくさん来ていただいております。なぜ自分が今この子育て支援拠点で働いているのか、私のよいところを活かしてここで仕事をしていくことでさらに社会を変えていくことに何とつながっているのだというような発表や学びのまとめが出されていたので、講座の効果があったなと思いました。

（治田委員）ありがとうございました。

（松岡委員）今子育て支援拠点という話がありましたが、私の団体も子育て支援拠点を運営していますが、横浜市は18区で360万人の市民がいて、やっている講座が横浜市の中央に位置する場所で、時間帯が普段働いている時間だと、なかなか職員を出せないということがあります。その辺の広がりや、各区にある区民活動支援センターの位置づけなどが今後は問われてくるのかなと思います。もっと近場のところで、話が聞ける窓口のようなところがあるとか。市民活動からNPOに移行する人たちへのアプローチはすごく大事だと思います。今は、新しいところが出てくるといふ機運が弱いような気もしています。研修などがいつも関内、桜木町の開催となると、とても遠くて出られないといった話はよく聞きますし、お金がないとか、最初のところを丁寧にやっていくにはどうしていくのかということが重要だと思います。この場所で開催するというのではなくて、こちらから出ていくこととかを今後は考えていかないと、これだけいい講座をやっていたとしても参加されているのは人口的にいうとほんの一握りだと思います。そこをどうやって今後広く波及していくかも検討していただけたらと思います。

（市民セクターよこはま）私たちもそれを実感しております。途中プレゼンテーションでもありましたが、泉区と市民活動支援課、泉区の区民活動支援センターと協働でNPO設立講座を行いました。この講座は、以前から桜木町で年2回やっているものも参加者数が減少傾向にありました。そこで、区域開催を呼びかけて、泉区で実施し、32名の方が参加されました。参加者には設立されてもう何年もたっている団体も半分ぐらいいたことから、区域におけるNPO法人がNPOらしい講座にどれだけ飢えていたかということ遅ればせながら実感しました。この講座は、中級編として、来年度の6月に2回やるという計画を現在、立てています。「PRO

NPO」講座もこれまで参加者が10数人ということが多かったので、20人以上の参加を目標にして、子育て支援拠点の施設長に開催曜日や時間帯などをヒアリングして日程調整しましたが、それでも全部の団体に合いませんでした。今おっしゃってくださったように、今後は、区の市民活動センターと協働で、講座について何かチャレンジしたいと思います。いいアイデアを本当にありがとうございました。

**(時任委員)** 今、区のNPOは区民活動支援センターでのNPO向けの講座に本当に飢えていると思いますので、ぜひ磯子区も仲間に入れていただきたいと思います。実施するときは、市民活動支援センターが単独でやるのではなく、区民活動支援センターの職員にも主になってやることで、今後は区民活動支援センター自身もNPO向けの何らかの講座や情報提供などができるようになったらと思います。

**(市民セクターよこはま)** ありがとうございます。泉区でのNPO法人設立講座は、NPO法人設立については、市民活動支援課から、NPOとは何かといった部分は私どもが行い、司会やワークショップについては、事前に泉区の区民活動支援センターにやり方をお伝えして、当日は仕切っていただきました。今後は、区民活動支援センターが全て行うということもチャレンジしていきたいと思います。

**(小濱委員長)** 何か上から目線で申し訳ありませんが、市民セクターよこはまさんは、本当によくなってきましたねというのが感想です。プレゼンテーションもいいし、資料もいいし、パワーポイントも格段に進歩したと思います。とてもわかりやすかったです。私からは2つだけお伝えしたいことがあります。アニマートは毎回隔々まで見させていただくのですが、すごく読みやすくなったと思います。話題も豊富になりまして、皆さんの活動範囲が広がったのだなということがアニマートを見ていても感じます。もう少し工夫したらよいと思うのは、やっぱり内容がかたいです。情報をそのまま伝えようという気持ちはわかりますが、市民ペーパーみたいな、雑誌みたいな、あるいはタブロイド判の新聞みたいなものと比べてみると、そちらは娯楽が入ったり遊びが入っているからもっと砕けているのだけど、あのペーパーがどこを目指すかによりますが、例えば子育てしているお母さんたちが手にとって子供と一緒に見たときに、へえーと思うような遊びがあってもいいのかなというのは思いました。それからアニマートピコの方もすごくいいです。願わくはアニマートもスマートフォンで読めるとすごくいいなと思ったので少し考えてみてください。

もう一つは、マネジメント講座のところで、マネジメント支援というか、会計処理とか、法律系の話と税務系の話をやっていますよね。だけど言葉の端々に出てくる哲学というのか、協働とは何かみたいな話とか、何でNPOなのかとか、それから先ほど市民セクターよこはまさんが自分でもおっしゃっていたけど、自分の立場というのか、私はなぜこの仕事をするのだろうかとか、それが本当に横浜市のためになるのか、社会のためになるのかみたいなところはみんな悩んでいるところで、それを聞きたい人がいるはずなのです。そうしたら、今までやっていた会計的なものと

かつくり方とかというのともう一本、難しく言えば皆さんの英知を集めて1つ経営哲学的なものが立つのではないかと思いました。そうすると、NPOとは何かみたいな話はすぐできると思うけど、市民協働条例ができていて、横浜市の魂とは何か、抽象的な表現で申し訳ないけど、あるいは協働とは本来何なのとか。あるいは講座で伸びた方の例をさっき市民セクターよこはまさんがおっしゃっていましたよね。そのような事例を挙げてもいいと思うけど、皆さんが普段問題と思っていることをどう形に変えていくのか、そのときNPOがどんな働きをするのかとか、非常にふわふわしたところだけど、そんなことも将来お考えになっていくとよろしいのではないかと思いました。皆さんにはそれだけの知見も蓄えられてきたし、ノウハウも蓄えられていますので、分散してあちこちでちょこちょこ出すのも当然なのだけど、どこかで1本ばんとまとめて出せるぐらいの力はあるんじゃないかなと思うから、ぜひチャレンジしていただきたいと思いました。

(市民セクターよこはま) ありがとうございます。

(小濱委員長) ありがとうございます。では次の説明に移りたいと思います。

(事務局) 続きまして、1つ目の自主事業実施団体をご紹介します。特定非営利活動法人アクションポート横浜様になります。事業名は「みんなで作る! 「Spice+ (スパイスプラス)」 ~若者の参加による現場体験データベースの作成とマッチングと協働の仕組みづくり」になります。平成27年度の事業報告及び平成28年度の事業計画を10分でお願いいたします。1分前にベルを鳴らせていただきます。よろしくお願ひいたします。

(アクションポート横浜) 資料により説明

(事務局) ありがとうございます。委員の皆様から御質問等お願いいたします。

(中島委員) プレゼンテーションありがとうございます。当初予定した方よりもレポーターの方がたくさん集まってというお話を伺って、関心の高さが伺えます。レポーターの方とは具体的にどういう属性の方が多いのでしょうかというのが1つ目の質問です。それから、この事業の目的の1つに若者の地域活動への参加ということがありますが、実際レポーターの方々自身が参加するものもあるでしょうし、そのレポートを御覧になった方々がNPOのことを知って参加することもあるでしょうし、何かこういう参加がありましたという事例がありましたら、御紹介いただけますでしょうか。

(アクションポート横浜) まずレポーターの構成比なのですが、学生と社会人が半分ずつぐらいになっています。若干女性が多めの構成です。あとはレポーターになってくれた学生がスパイスプラスのレポートを見て、「次はここに行ってみよう」と思って違うNPOに行きたいと思ってくれたり、あとはアクションポートの他の事業で参加してくれた学生がスパイスプラスを知って、「私、この分野も行ってみよう」と思ってスパイスプラスのレポーター活動に参加してくれる学生もいたりします。

(アクションポート横浜) 補足したいと思います。このレポーターで参加してくれた46人のうち、初めてボランティア活動に参加したという方にアンケートをとっています。その内容からすると、9割以上の方が今後も何かしら活動に参加したいという意思を持っているということがあります。あとは、これは最近の話なのですが、先ほど発表でも申し上げた、現場ツアーで行ったフーズマイルぐりぐらさんなどは受け入れ側にも学生さんやインターン生がいました。そこで今回参加した学生さんと「次は何か違う企画をやってみよう」などという話で盛り上がってたりもします。私もすべての活動団体に同行しているわけではなく、私ともう一人の職員で2人で担当し分けて行っているのですが、そうやって現場の方と盛り上がって、「また次何か企画をやろう」とか「新しいことをやってみよう」などという形が幾つか生まれているかなと思っております。あとは発表にはなかったのですが、実際このサイトを見て、企業の方から企業研修をやってみようなどという話が1つありまして、プレイパークさんなのですが、新人研修をそこでやってみようという事例が生まれたりしています。そういったこのサイトを見ての新しい展開だったり、レポーターが行ってみて新しいところにステップアップしたり、もしくは行って見た団体にいついてしまったり、いろいろなパターンがあり得るのかなと思っております。

(中島委員) 今社会人の方が半分ぐらいいらっしゃるということでしたが、それがすごく興味深いのですが、社会人の方の参加のきっかけ、どういう方が参加されているのかを少し教えていただけますでしょうか。

(アクションポート横浜) 社会人が半分ぐらいで、そのうち志望動機は大体2つのパターンです。1つは自分のスキルを活かしたいというプロボノ的な形です。参加の仕方には、レポーターとして参加するかデータベースを作成することで参加するかという2つのかたちがあるのですが、プロボノの方に特に、データベースチームのほうに入ってくるメンバーがいます。例えばSEさんとかライターさんとか、そういった自分のスキルを活かしてこのサイトに何か貢献したいというパターンの方が大体そのうちの半分ぐらいです。あと半分ぐらいは、とりあえず何かしてみたいという方です。例えば学生時代にボランティア活動をしていてちょっと遠ざかってしまったとか、あとは今社会人として3年ぐらいたって時間もできてきたので何かしてみたいということで、とりあえず現場に行ってみようかなということでレポーターに応募してくるというパターンと大体大きく2つが志望動機になっております。

(松岡委員) どんなアプローチを学生や社会人にしているのかという点です。さっきも言いましたが、横浜市は本当に広いので、北部、南部、東部、西部とかとエリアごとで大学もあるでしょうし、何かその声かけの工夫があるのかという部分を教えてください。あとこのサイトを知ってもらうため何かを工夫をやっているのか、そのあたりを教えてください。

(アクションポート横浜) このサイトを最初につくったときに、今まで私どもの経験上、学生もそうですし、社会人もそうなのですが、ボランティア活動に参加してくる入り口として一番多いのは口コミだろうというのが私どもの仮説としてありました。なので、口コミができるようなサイトをつくっていきこうというのがもともとのコンセプトの中にありました。具体的にどういうことかということ、手渡しでこういうフライヤーを渡していくということもありますし、フェイスブックみたいなものでシェアしていきこうと。シェアしていくと、例えば池田さんの友達の中にはそういうことに興味がある、もしくは「あ、池田さんが行っているのだったら私も行こうかな」というような友達に伝わっていくのではないかと。そういうアプローチをしています。社会人の人たちはそういった友達の友達型で参加してくるパターンの方もあれば、あとは別途、私どもの方で横浜アクションプランナーという別部隊で若者のプロボノチームがあるのですが、そっち経由で入ってくるパターンの2パターンがあります。このサイトをつくったものの、一般の方に届けていく発信力がまだまだ若干弱いというのが課題でして、今はどちらかということ口コミで知り合いを、周辺部分をあさっている形なのですが、もう全然知らない人に届けていくところをこれから3年目頑張っていくところなのかなと思っているところです。

(松岡委員) 実は子育て支援拠点なんかもすごくインターン生がたくさん来たり、あるいは学生がボランティアでたくさん来ています。学生に届けるのもそうなのですが、来ている親御さんなどにもこういうことを知ってもらおうとか、そういう取材をした側のところをもっと広げて、「あ、こんなのをやっているのだ」ということ広めていけるといいと思います。だから学生というカテゴリーだけではないところにこれをどんどん知らしめていくことが大事だと思うのと、あとは、大学生ではなくて中学、高校生ぐらいのときにボランティアとは何だろうということを学んでもらうことはいいと思います。そういう垣根の低いところで、「行ってみたら楽しかった」とか「喜んでもらえた」とかという実感があるということはずごく大きいと思います。ボランティアも今は年配の方が多く、若い人がいないというのも現状です。そうした場合に、ここにやりたい若者がいて、そこをつなげるとか、さっき言った区民活動支援センターとつないでみるとか、そういうところが何かまだまだつながっていない感じがするのです。さっき言った、大学にどうやってアプローチしているのかなというのも、大学だけではなくて中学とか高校にアプローチするとか、そのあたりからやってみるとか、まだこういうことをやっているというのはすごく少ない学生と、どうしてもとらえられてしまうのです。だから今後の広報の仕方とか、そのあたりをどうやって考えているかを教えてください。

(アクションポート横浜) ありがとうございます。まさにその部分は私どもも頑張っていきたいと思っているところです。お手元にお配りしたフライヤーなのですが、今取材させていただいている団体の皆さん、例えば子育て支援拠点とか、そういうところでお配りいただけるように、そしてPRいただけるようお願いしてお

渡ししています。ただ、今おっしゃっていただいたように、まだアプローチできていない、浸透もできていないなというところは今後やっていきたいと思っています。あと、大学の方は、私どもがやっているインターンシップの関連もありまして、授業に伺わせていただいたり、あとはボランティアセンターのほうにプレイヤーを置かせていただいております。そういうふうに関心している学生に届けるようなサイトになればいいなと思っていますし、あとは大学の授業とかでもよく出てくるのですが、「何かしたいのだけれど、どこでいいNPOを探したらいいかわからない」とかという話があります。いいNPOというのはいろいろとあると思うのですが、自分の目で探せるというようなサイトを私たちはつくっていかうと思っていますので、そういった1つの基準になればいいかなと思っています。あとはまだ中学生はアプローチできていないのですが、高校生の方は、神奈川県と連動して高校生ボランティアセンターというのをやっていますので、その経由で高校生には伝えられるような、アクセスできるようなネットワークをつくっております。ただまだまだ学校までは突破できていませんので、そのあたりは徐々にやっていけたらと思っています。

**(小濱委員長)** 私から1つか2つお伝えします。内容はとてもいいと思います。今おっしゃっている、現場はいいのだけど、管理されているアクションポート横浜本体の皆さんがなぜ若者でなければいけないのかとか、若者だから何が出てくるのだというところをもっとはつきりと出してあげて、皆さんが活動すると、受ける方からすると、「ああ、年配の人たちの取材ではなくて、やっぱり若い人の視線はこうなのだな」ということがよくわかるでしょう。その一工夫が必要だなということを思います。もう一つは、多分コンセプトはあると思うのだけど、手当たり次第にどうか、学生に任せて興味があるところに行くのではなくて、やっぱり問題意識があるではないですか。だから学生の問題意識をNPOのプロの皆さんが引き出して、「ああ、こういう問題意識に対してこういう取材をするんだ」ということを、道筋をつけてあげることが必要だと思います。つまりコンセプトというか、根っこというか、1本筋を通すという意味です。そうすると、もしかしたらテーマ別にグループ分けができるかもしれないではないですか。例えばさっきちょっと話が出た、子育て支援グループの取材みたいなものとか、あるいはみんなで一緒にやるグループとか、何かが出てくるような気がするのです。ですからアクションポート横浜の本職の方々があるところはしっかりと組んであげて、それをまた私たちにも見せる仕組みも必要かなという感じがしました。

**(アクションポート横浜)** ありがとうございます。

**(事務局)** 続きまして、2つ目の自主事業実施団体をご紹介します。特定非営利活動法人エティック様でございます。事業名は「地元企業を核とした地域課題解決力を高め合うコミュニティ作り」です。準備が整いましたら、平成27年度の事業報告及び平成28年度の事業計画の説明を10分をお願いいたします。1分前

にベルを鳴らせていただきます。よろしくお願いたします。

(エティック) 資料により説明

(事務局) ありがとうございます。委員の皆様から御質問等お願いたします。

(松村委員) 御説明ありがとうございます。エティックさんはいろいろなコーディネートをするということについては、いろいろなところや場面でもお仕事をされてきて、そういうことがお得意なのだろうなと思ってお聞きしていました。先ほど「地域との対話プロセスをもっと重視しなさい」というコメントをいただいたという話もありましたが、地元企業の方とのパイプが強いというわけでもないとしたときに、どういったところにその強みを出していくのか。そのことについて御説明いただけますか。

(エティック) 地域企業さんとは、エティック本体とエティック横浜ブランチで動きがちょっと違いまして、エティック横浜ブランチの方はかなり地域に根差した中小企業さんと関係性を築いてきています。地域貢献企業さんとのつき合いもかなりありますので、その中で協働していくということと、あとは今回のまちづくり作戦会議に御出席いただいた方から、例えば地域ケアプラザを御紹介いただいたもしました。たとえば、五光発條さんの場合ですと、実は私たち自身が区役所の地域振興課にお電話をかけて「こういう事業をやっている」という御説明をして、課長自らが動いてくださったというようなことがありました。ですので、その企業さんを応援していく上で、地域振興課とか周辺の学校などに対して私たち自らがアプローチしていったつなぐという動きを、この5社については深くさせていただいて、それを来年度については新規3社、継続5社、合計8社についてこういう形で各社さんとの取組が進むようなつながりづくりをこちらからプッシュ型でやっていくところを予定しています。

(治田委員) 今の松村委員の続きになるのですが、さっきの6つの視点と3つのアプローチ仮説というのがちょっと弱いなという感じがしていて、この6つのほうはそういう見方で改善点が道筋として見えてくるのですが、この協働のきっかけは当たり前すぎるなと思いました。それよりも、多分松村委員がおっしゃろうと思っていたのは、こういうところに行くまでの何かマニュアルみたいなものがあるのではないのかみたいなことなのかなと思いました。もし可能でしたら補足していただけたらと思うのですが、ただ思っているだけではいけないけれども、こういう条件をクリアしたらここまでいけるみたいな。そうでないと多分冊子もできないのではないかなと思っていて、これまでのいろいろな経験をもうちょっと第三者とかが入って分析して、言語化した方がいいのではないかと思います。結局企業さんから手が挙がって、何か組み合わせて次のステージをやっただけだとちょっと乱暴な感じがしていて、多分そういう乱暴ではなくて何かやっちらっしゃると思うので、そこをもうちょっと顕在化させたほうがエティックさんの強みをもっと出てくるのではないかと思います。伺っていました。

(エティック) ありがとうございます。

(小濱委員長) 松村委員、補足はありますか。

(松村委員) 治田委員からフォローしていただいたのかもしれませんが、今日のお話だけ伺うと、いろいろなトライをしてきて、こんなことを学びましたという感じになってしまっていて、それだとPDCAとしては回っているかもしれないけれども、得意なものがあるからやっているわけだと思うのです。いろいろなノウハウをお持ちだろうし、そういったものを活かした上でやってみて、それでちょっと違いましたということであればわかるのですが、体当たりしてみました、こんなことがわかりましたというだけだと、わざわざエティックさんが関わる必然性をあまり感じにくかったので、どういうところを強みとして自分たちでお考えになっていて、今回の事業に取り組んでいращやるのかということを改めてお尋ねしたいと思いました。

(エティック) ありがとうございます。この事業を私たちがやっている意味合いとしては、もう結構顕在化しているというか、アクティブな地域に根差した企業さんがある中で、何か新しい事業をつくっていてもだめだなと。もう少しすそ野を広げていきたいなど。たくさんの企業さんがもっと地域に目を向けたり、協働が始まったり、若手社員の方が関わったりということを試行したいなと思っていて、その中で地域との協働に関心はあるけれどもきっかけがなく、ネットワークもないという企業さんを、どうしたらきっかけをつくり、背中を押すというか、それでもっと協働の、実際にそれに感化されて動いていく企業さんのドミノ倒しみたいなことが起きたらいいなというところがこの事業に取り組んでいる、私たちとしては一番目指しているところです。

(中島委員) ありがとうございます。昨年の発表を伺って、多分時任委員とかも御指摘されていたと思うのですが、地域との関わり方があまり見えてこないという話があったのを記憶していて、そこから今日の発表を伺うと、私はすごく地域との関わりが充実したなという率直な印象を受けました。松村委員や治田委員が言われたこともすごく共感できる場所があって、何か去年と今年の成果との、エティックさんが取り組まれたアプローチの違いというのはきっと意識してやられたところもあったので、今日のプレゼンテーションになったのだろうなと感じたのです。その点がもし何かあればということと、あと先ほどの松村委員の強みというところについて、コーディネーションとかという意味では、インターン生の派遣とか、そのインターンの方が介在することで企業の方が地域とつながれたり、ほかのNPOの方とつながれたりということが多分すごくエティックさんらしいところだと思うのです。その点でインターン生が果たす企業に対する影響とか、地域に対する影響というものが何かありましたら教えてください。

(エティック) ありがとうございます。前者の質問については、初年度の最後に市民活動支援課の皆さんとお話ししていく中で、このプロセス、関係づくりがあっ

地域を知る、それで魅力や行うというのに変わるといふところのステップを踏んでいくという話があったので、そこを意識して、各社さんがどの段階にいらっしゃるのかというのを見ながら必要なサポートを行うことをしました。あとは先ほど申し上げた、自治会町内会とか学校とか地域ケアプラザとかといったところはあまり今までの関わりの中では接点のなかったところなのですが、昨年度の委員会での御指摘の中で、もう少し地域に深く入っていくというところでそこを意図して私としても突撃というか、いろいろなステークホルダーを巻き込むというところを意識したというのが今年度すごく注力した部分かなと思っております。あとはインターンシップ生が関わることでの協働が進むというところについては、地域振興課の課長も、今ここの写真に写っている学生の思いとか勢いとか「地域を盛り上げたいんです」みたいなところに引っ張られる形で、課長もどんどん人つなぎをしてくださったということがありました。ですので、学生の個性とかによる部分もあるのですが、そういう思いを持った学生が関わることで、またこの五光発條さんについては社員の方は地域に全然関心を持たれていなかったのですが、彼女に引っ張られる形で若手社員の方が自らいろいろな地域とのつながりに時間を使うようになっていったという変化が手ごたえとしてはあって、若い世代が情熱を持って入ることでのきっかけというか、背中を押すという、そこが進んでしまえば、仮にインターンシップ生が6カ月で抜けたとしても、社員の方、社長を含め、石は転がり続けるのだなというところがこの事例の中で感じているところでもあります。

(小濱委員長)では私から1つ。中島委員もおっしゃったように、去年から比べるとかなり安心して聞くことができまして、実績も上がってきて、各企業の皆さんを本気にさせたという部分は非常に評価できるなと感じます。ただ、今ばらばらと質問が出たみたいに、その前に発表されたアクションポート横浜さんや市民セクターよこはまさんに比べると、プレゼンテーション力が非常に弱くて、下手というか、よくわからないのです。だから本当に皆さんがやっていることを伝えるためのプレゼンテーションになっていないのです。例えばパワーポイントにこんなに文字をいっぱい書いたら誰も読みません。1つすごく気になったことがあるので、これは指摘しておきますが、10ページのところに「過去2年間の実践を通じて、インターンシップ生が企業に入ることをきっかけとして企業が地域社会に積極的に」というくだりがあるでしょう。この部分は今中島委員も質問された部分なのですが、何でここでインターンシップ生が必要なのかという答えが出てこないのです。その答えは、3ページの予算のところ「経費節減の工夫として本事業の運営においても」というくだりがあるんで、「インターンシップ生を採用し人件費の節減に努めた」と書いてあるわけです。学生をただの人足として使ったという言い方にみえてしまって、本来だったら自分たちで行くべきところを、自分たちが行くと経費がかかるので、安上がりで済む学生を使ったというふうにとられますから、この言い方はちょっとあって、これは書き直すなり修正したほうがいいと思います。

(エティック) ありがとうございました。

(事務局) ありがとうございました。それでは次の説明に移りたいと思います。続きまして3つ目、最後の自主事業実施団体をご紹介します。横浜コミュニティカフェネットワーク様でございます。事業名は「カフェ型中間支援機能の創出・強化・普及」になります。準備が整いましたら、平成27年度の事業報告及び平成28年度の事業計画の説明を10分をお願いいたします。1分前にベルを鳴らせていただきます。よろしくお願いいたします。

(横浜コミュニティカフェネットワーク) 資料により説明

(事務局) ありがとうございました。委員の皆様から御質問等お願いいたします。

(時任委員) ありがとうございました。最後におっしゃった、普及のために云々のところは、何をどこにどう普及するのか、もう一度お話いただけますか。

(横浜コミュニティカフェネットワーク) ありがとうございます。御質問いただけてうれしいです。実は5団体に伴走支援を行います。3カ年目にはその5団体が地域のステークホルダーに働きかけながら、地域としてコミュニティカフェだけでなく中間支援機能をどうやってつくっていくのかを考えていく場づくりを実践してみたいと思っています。そのプロセスも含めて、どのように各地域でカフェ型中間支援を広げていけるのか、それを最終年度には報告書と啓発の冊子という形でアウトプットをつくり出していくことが目標になっています。

(時任委員) ということは、区民活動支援センターとも一緒にということですので、コミュニティカフェを飛び出す可能性があって、カフェにこだわらずに地域にそういった中間支援的な基盤があるグループなり場なりをつくっていくというイメージですか。

(横浜コミュニティカフェネットワーク) あくまでも今回の取り組みはコミュニティカフェをやっている人たちの取組なのですが、1つ今回見えてきたのは、区民活動支援センターとの役割を確認することが多分重要なのだろうということを感じました。勝手に私どもがそう思っているだけなのですが、公的機関ができること、いわゆる区民活動支援センターとしてできることと、緩やかな中でのコミュニティカフェが担っていける、特に市民との入り口の部分であったり、創発的にいろいろなものが生み出されていくという、そのあたりがうまくクロスオーバーして連携していくことが多分重要なのではないかと思います。ですので、3年目あたりはそのあたりの政策提言的なところも含めて、特に区役所と一緒に考えていくような機能を持つていく必要があるのではないかとということで、2年目区民活動支援センターも個別支援と一緒に入っていただくというか、関わりを持つていけるといいなと考えました。

(治田委員) 発表お疲れさまでした。中間支援機能についてはこういった議論を進化させていく方向なのだと思うのですが、現実に私どもところに相談に来られるコミュニティカフェの方とか、あとこういう一覧で並べられたコミュニティカフェ

の情報を見るにつけ、どういう収入源で継続しているのかとか、家賃を払っているところなのかそうでないのか、人件費をどれだけ払っているのかそうでないのかとか、何かそういう運営ノウハウがないと、中間支援の機能だけ議論しても、結局その機能が追いつかない団体が増えてしまうのではないかと思うのです。もしその認識が間違えているのであれば、そこも含めて補足していただけるとありがたいのですが。

(横浜コミュニティカフェネットワーク) 御質問ありがとうございます。そこが初年度実は課題として上がってきている部分なのですが、もちろん持続性がないと中間支援といっても続けられないねという話には正直なっています。ただ、これを解決する方法は私たちも実は持っているわけではなく、コミュニティカフェもスタートしてから一定の期間は自分たちで頑張られて、いろいろな地域の人と関わり合いを持つ中で、地域づくりの意識を自分たちがお持ちになられて、中間支援機能を持っていく傾向があるので、そういう意味ではどうやって地域の人たちと手を重ねながら中間支援体制をつくるのかという。これからの議論の中でその部分を検討していかなければいけないところではないかと思っています。

(横浜コミュニティカフェネットワーク) 私もソーシャルビジネスの端くれ者としては、御指摘のところが一番大事だと思っているのですが、今回議論のポイントをあまり広くしないために、あえて事業性のところは、我々検討会の中でも何度も何度も話が出てきてはいるのですが、実は中間支援のほうに話を振り戻してやっています。ただその中で、先ほど説明をは省略してしまったのですが、今回見えてきたポイントの4番目のところで、実は自分たちがやっていること、もしくは近隣のコミュニティカフェがやっていることの成果はみんな分かりづらいよねという話をしているということが非常に多く出てきました。それをきちんと定量化なり数値化なりするという、価値を可視化するというのをもう一回みんなで取り組んでやっていくことが大事だという議論が出たのです。これは言いかえると、コミュニティカフェが受益者負担のビジネスモデルだけでは成り立たないわけで、税金を使うやり方とか、浄財を使って寄附とか、会費を集めるとか、いろいろな形のベストミックスのビジネスモデルを考えないといけないと私は思っています。それを一事業者が考えるのではなくて、地域全体でそれをどう成り立たせていくかということを考えていかないと多分持続可能なモデルはそう生まれないだろうとっていて、この意義や成果を可視化するという事の中で、実は区役所の職員の方からも「そういうことだったのか」という声もたくさん聞かれました。それをきちんと地域に成果とともにフィードバックするという中で、地域の中で、ではこれをどうやって、金銭面も含めて支えていく必要があるのかということ、あと2年間きっちり議論できる機会をいただけそうだなという手ごたえを非常に感じております。

(松岡委員) コミュニティカフェは求められているものだと思います。増えてきているというのはそういうことだと思います。だけど、そこがなぜ中間支援を担うの

かというところが今回の肝だと思うのです。なぜカフェでなければいけないのかとか、ではここでいうところの中間支援とは何だろうかというのが、私の中では分かりづらいです。中間支援というものの中でもいろいろなジャンルがあるのかなと思います。だからそのところをもう少し、カフェが担わなければいけない中間支援とはどういうことなのかとか、人が集まりやすいという面は確かにあると思うのです。だけど「それでいいじゃない」という人たちもいるかもしれないし、「いや、もっとそこを発展させていくべき」とか、中間支援機能は分けていく必要があるというようなお話があったと思うのですが、ただ分けるにしても、そこでいうところの中間支援というところが、どういうふうに明確に見えてくるのか。では、今ある中間支援の組織との違いは何かとか、連携することもそうだと思うのですが、あえて連携しないとか、独自の路線で行くのだというところが、今後もう少し話をした上で決まってくるのだと思うのですが、そのところをもう少しわかりやすくしていただければなと思いました。

（横浜コミュニティカフェネットワーク）ありがとうございます。私たちもそのあたりをぜひお話ししたいと思っていたのですが、まさしくこの一番下には書いてるところにも関連づく話で、実は中間支援機能を意識していなかった人たちがたくさんいたのだなということを私は改めて今回感じました。場を開いて地域の中で信頼を持って関係づくりができているところは自ずといろいろな相談を持ちかけられたり、地域の困りごとが入ってきて、なぜだかカフェだけやっていたらいいのに、よそよそ出かけていって一緒に考えたり動いたり、そういったものが生まれてくるということを感じている人たちがコミュニティカフェをやっている人たちの中で相当数、1割や2割ではない比率でいるのだということは、私は体感的にこの1年間で学ばせていただきました。ですから、そこをもう一押ししてあげることで、実は地域の中で中間支援が勝手に生まれてくるというやや大げさなのですが、そういう機能がたくさん、今まで経験上も出てきているなということを感じました。

（横浜コミュニティカフェネットワーク）今日も実はさきほどまでのおへそというカフェに朝からいまして、区の助成金申請書なんかを書いていたのですが、そうするとそこにまた区の担当者がやってきたりして、それをまた相談しながら進められたり、そういう間口の広さとか、やっていることがどんどん全方向になっていくというのも、この自然発生的な中間支援というのを、私たちのようなまだ初めて間もないコミュニティカフェでも感じているということを一言付け加えさせていただきます。

（酒井委員）自然発生的という、表現としてはとてもよく分かるのですが、要するに縛りが特徴的に緩いところにあるということだと思うのです。けどもともとそれを始めた人たちが持っている中間支援機能の志向というのですか、そこを目指すところ、そのあたりが当然あったのだと思うのです。そこあたりの働きかけの仕方というか、決して縛りではないのだけど、あたかも見え方として自然発生的に見

えるように緩く働きかけるといふところの意味を今回のこの取組の中でつかめるといいのかなと思いました。

(中島委員) 酒井委員とすごく似ているのですが、今後の取組の中で話を伺うと、すごくフォーマライズされる方向にいくのかなという感じがするのです。今の介護保険の議論でもそうなのですが、生活支援サービスとかインフォーマルなものが制度化されていく中で、安定する部分と本来あったところが失われている部分があるので、そういうのも研究して下さるといいなと思いました。

(小濱委員長) ありがとうございます。今までみんな気になっていたのだけどここまで突っ込めなかったというところに問題意識をもって、そこを3年間にわたって取り組まれるとことはすごくいいと思います。今年1年目ですから、1年目にしはすごく成果があったと思いました。またプレゼンテーションもすごく上手でした。でもできれば1人の方が発表された方が分かりやすかったかなというのがあります。それと、治田委員からの御指摘のビジネスモデルの件です。私は単にビジネスモデルの問題ではなくて、普通に中間支援組織に行けば無料で相談に乗ってくれるのに、カフェに行けばコーヒーを飲んだり何かを食べたりするというお金が発生するわけでしょう。つまりこれは相談の有料化なのだと思うのです。つまりノウハウをもらうために、直接払うのではないけど、そういう形でお金を払う。そういうノウハウの有料化という部分に私は触れているのではないかという気がしています。皆さんはカフェという形だけにこだわっているかもしれないけど、私から見えているのは、今まで無料で提供していたノウハウ、教えていたことがコーヒーとかスパゲティとかという形を変えて有料化していく、そのあり方だと私は捉えました。だからその問題についてどこまで突っ込めるかということもこれからの課題として、先ほど中間支援組織のあり方についての話をこれまでは中心にしてきたので、ビジネスについては横に寄せておきましたとおっしゃったけど、これは3年の間にはどこかでは触れないといけないのかなという感じはします。

(事務局) 委員の皆様、事業実施団体の皆様、ありがとうございます。本日委員の皆様へメールでシートを送らせていただきます。3月30日までに御協力をよろしくお願いいたします。

(小濱委員長) 発表された皆さん、どうも御苦労さまでございました。これからも頑張ってください。

ウ よこはま夢ファンド団体登録及び助成金交付審査結果について

(小濱委員長) 続きまして、ウの「よこはま夢ファンド団体登録及び助成金交付審査結果」につきまして、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 資料により説明

(小濱委員長) ありがとうございます。では質疑に入る前に、部会のメンバーであります、時任委員、松村委員から何か補足がありましたら、お願いします。

(時任委員) 今事務局から御説明がありましたように、この組織基盤強化助成が今年度からの実施だったのですが、今年度は期間が約半年間ということで、平成28年度からがほぼ1年間を通しての事業ということになりました。部会でも少し話し合ったのですが、団体が30万円という助成金のわりにはというに変なのですが、当初想定したよりも大きな団体、何億円という事業高になるような団体がありました。例えばコロンブスアカデミーさんとかスマイルオブキッズさんとか、事業高が多い団体があるのですが、申請書を見ると、そうはいつでも組織の基盤のところまではできていないというようこと分が書いてあります。例えばホームページの更新するお金とかパンフレットを作成するお金を捻出できないような団体ではないと思うのですが、この事業の特徴でもある、30万円の助成を受ける部分だけではなく、団体としてもとても手間のかかる本当に丁寧に取組まなければならないような自己評価があったり、メンバーで何度も話し合うというような参加条件の交流会もあります。ですので、とても丁寧に取組まなければならない助成事業だと改めて思って、平成28年度の1年間でどんな形でそれぞれの団体さんが取組まれていくのかなと今は感じています。

(松村委員) 今時任委員がおっしゃったように、30万円を出すことはそれほど大したことないような団体も申し込まれているわけですが、実際にファシリテーターとして入ったりした経験から申し上げますと、これはこれですごくいい助成制度になるのではないかと感じました。まだ1年目ですが、立ちどまって外部の人が入って、改めてコアなメンバーだけでなくもう少し広いメンバーで話し合うという、すごく振り返りのいいチャンスになっていまして、この委員会の議論から立ち上がった制度ですが、比較的うまく回っていきそうな感じが手ごたえとしてあります。今回、例えば組織基盤強化助成の審査の中でも結構ぎりぎりを通っている団体もあるのですが、こういう助成金制度で大事なことは、いかにファンド側と団体側でうまくコミュニケーションをとっていくかだと思うのです。せっかくお金を出すわけですから、そこをきちんと見ていく必要があるという意味でいうと、普通に助成金を厳しくチェックする点でいくと、どうかと思う部分もあるのですが、これを機会にきちんと自分たちの団体の今までやってきたことの強みとか周りの状況とかを確認する機会になったり、よく申請書を出してくるけれども、このあたりをもっと強調した方がいいのですよみたいなことは具体的にはお知らせする機会はないのです。ですが、こういう機会を通してうまくコミュニケーションできると、もっと団体にとってもいいように助成制度が活用できていくのではないのかなと思っていますので、コミュニケーションをとる機会として非常にいいかなと思っています。それと、例えば普通に助成金の申請団体でも今回、申請金額よりも余り寄附が集まらなかった場合にどうしようかという議論をしたのですが、その場合、寄附が集まった金額程度で助成金を出すのか、あるいはもともともう少し高い申請金額で申請しているわけですから、そこに見合うだけの寄附を集めてから助成金をも

らうのかという、その選択肢を団体側に用意するというをしたのです。それは事務局のほうでも受け入れてくださったわけですが、それは結構いいなというか、団体にとってそのお金がなければ本当にできない事業なのか、下げてもやれる事業なのかということを選択するということになります。常にこちら側が申請書だけを見て、これはだめだとかというふうになってしまうと、1回限りになってしまうので、そういうコミュニケーションする機会がないのですが、こういうものであっても、少しでも団体の意向とか思いを聞く機会があって、「そういう場合だったらこういう金額が出せますよ」とか「次の機会にトライしてください」とかということができると思います。このように助成制度をうまくコミュニケーションする機会を通して団体のスキルアップとか、あるいは自分たちを見直す機会になることはすごく大事なことかなと、やりながら考えました。

（治田委員）質問ではないのですが、今回の組織基盤助成の方の団体について、そのうちの2団体が実はうちが神奈川県とやっているボランティア団体成長支援事業で中長期計画策定プログラムに参加いただいた団体なのです。あっちこっちさんとスマイルオブキッズさんです。ここに書いてある表記を見ると、団体の今を掘り下げたときに、こういうことをやらなければいけないというのがかなり明確に書かれていて、金額というよりは、そういった行政からのお金をいただくことで自分たちの成長を見届けていただくというか、そういう機会としてこれをちゃんとキャッチして申請して通ったというのは私、支援側としてはすごくうれしいなと思いました。もう一つ、今の松村委員がおっしゃったことが、半分よくわかっていないところがあるのですが、30万円で申請したけど、金額を下げてもいいよと言ったところには、集まっていなくてもそれを出してあげたという意味なのですか。

（松村委員）資料でいいますと13番目のインフォメーションギャップバスターさんだったのですが、申請金額55万円で実際に10万円の寄附が集まっていて、その場合どうでしょうかということなのです。ここではたしか冊子、パンフレットをつくるということでしたけど、10万円でつくれる冊子をとりあえず出すということでもいいのか、やっぱり55万円必要なグレードの高い冊子を出したほうがいいのかということ、こちらからは団体側がどういうおつもりかは分かりませんよね。それをちゃんと一度返して、どういう希望があるのかということ踏まえた上で、ではやっぱり55万円が必要であれば次の機会にまた申請しますということもありだし、10万円でとりあえず出したいということであれば、それもありませんよね。そういうふうな応答する機会を設けたことはよかったのではないかということです。

（治田委員）それについてなのですが、私どもは今クラウドファンディングをやっていて、それはある目標設定金額を掲げて、うちの場合はオール・オア・ナッシングで目標金額に行かなかったらアウトなのです。モーションギャラリーさんとかいろいろなところは、手数料は最初の提示よりも高くなるのだけでも、50万円設定したけど40万円しか集まらなくても、手数料を引いた分が入るみたいなことがあります。

す。私は支援する側からすると、目標設定金額が甘かったからそういう状況になったのだったらもう一回やり直した方がいいと思っていて、下げてだめだったら最初から10万円にすべきだったのではないかということをもっとちゃんと指摘しないと、集まった金額でどうやらもらえるようになりたいになってしまうとよくないなと思っています。ただ、そういうコミュニケーションはやったほうがいいとは思っています。なので、そのあたりをどうするか仕組み化がもしかしたら必要なのかなと思いました。結構助成金は高く上げがちですね。もらえたらラッキーみたいなところもあって、団体の力量と本当に掲げた欲しいものが合致していないときに、本来だったらこれを申請する前にやりとりがあって、「あなた、本当はそんなに要らないのではないか」とか「本当に集められるの」みたいなところの方がもしかしたら大事なのかなと思ったのですが、いかがでしょうか。

(松村委員) この助成金制度をよく御存知の方であれば、まず団体の希望寄附額を確認した上で申請金額を出してくるはずなので、そういう意味ではその辺のコミュニケーションがまだうまくとれていなかったということは想像できるわけです。そうした場合には、こちらでいろいろとそんたくをして、どうなのかな、ああなのかなと言って考えるよりは、ちゃんとそこでコミュニケーションをとった方がいいのではないかということです。

(治田委員) わかりました。

(中島委員) ありがとうございます。部会に参加されている時任委員、松村委員から説明をいただいて、すごくよく分かりました。時任委員が御指摘されていた、大きい団体のところですが、大きい団体なりに非常に参考になるところがあると思うのは、助成団体同士の情報交換ということも挙げられていますが、恐らくそれぞれの団体が抱えている組織基盤強化上の課題というのは、ここに申請されたものだけではないですね。ですから、実際お金がつかなくても、さっき治田委員が御指摘されたように、気づくこと自体がすごく重要だということを踏まえると、ここに挙げられた団体のノウハウというのは恐らく共有する価値がすごくあると思うので、大きな団体というのをプラスに考えると、影響力のある団体が発信する情報ということで、何かほかにも利用価値があるのかなと思いました。

(小濱委員長) 私も治田委員の御意見に賛成で、この助成は減額した団体が何団体かありますという御説明があったのですが、そうではなくてオール・オア・ナッシングではないかと思います。申請した額の寄附が集められなかったらゼロにした方がいいのではないかという感じがとてもしました。これは意見として受け取ってください。それでは、審議に移ります。まずは平成28年度第1回よこはま夢ファンド登録団体申請があった3団体について、御了承いただけますでしょうか。

(了承)

(小濱委員長) ありがとうございます。続きましては、今議論のありました平成28年度第1回よこはま夢ファンド登録団体助成金申請がありました13団体について、

御了承いただけますか。

(了承)

(小濱委員長) ありがとうございます。最後に、平成28年度よこはま夢ファンド組織基盤強化助成金申請のあった6団体について、御了承いただけますか。

(了承)

(小濱委員長) ありがとうございます。それでは、ここで休憩をとりたいと思います。45分まででお願いします。

(休憩)

## (2) 協議事項

ア 「横浜市市民協働条例」3年ごとの施行状況の検討の進め方について

(小濱委員長) では、再開しましょう。これから協議事項に入ります。まずはア「横浜市市民協働条例」3年ごとの施行状況の検討の進め方について」、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 資料により説明

(小濱委員長) ありがとうございます。ただいまの説明につきまして何か御意見等ございましたらお願いいたします。

(松岡委員) 特に市民の意見の集め方のところで、前回の委員会での意見を反映していただいてこういう形にさせていただいたことは感謝いたします。市民のための市民協働条例であるということが一番大事にする、そのための市民の意見を聞くための方策としてのアンケートのとり方とか、実際にどういうふうにフォーラムを持っていくかというところが私はすごく大切なところになると思います。ですので、月1回程度ワーキングを開催していくということなどをいろいろと考えますと、ある意味すごくタイトなスケジュールですが、そこがすごく大事なところかなと思いますので、ここまでの短期間でまとめ上げていただいたこと、本当に感謝いたしたいと思います。横浜に市民協働条例というものができていることをもっと広く市民にも知っていただくことと、NPO自身も、分からなかったり知らなかったりということがまだまだすごくあると思います。せっかくあるものが使われていなかったり、自分たちを守るためのものでもあるのだということを、先ほども話にでた区民活動支援センターとか、そういうところにもどんどん波及していくことが広く市民から意見を求めるところなんかにも必要になってくるかと思います。知っている人だけが知っているのではなくて、広く皆さんに知っていただけるような形になっていってほしいと思います。意見というよりも感想でした。

(中島委員) 松岡委員の御意見とほぼ一緒なのですが、プロセス自体もこれを拝見すると、協働的に進められるということで、事務局も市民活動支援センターも負担ではあるかもしれませんが、市民側も事務局に出すということで、とても重要な点を考慮されながら進めていくことができるのではないかと思います。

(松村委員) このような提案という形にまとめられたことについて、ここでの委員会の議論がきちんとそうやって形になっていくことはいいことだと思っています。先ほどの組織基盤強化助成金についても、何もないようなところから始めていて、1年目がようやく終わろうとしているわけですが、形にして次のステップへ進んでいこうとしていることはすごく大事なことだし、これは言う側の委員にもある種当事者性が問われていくというか、何か制度ができたときにその運用の方にもきちんと関わることを求められていて、仕事量がふえていくことにはなるかもしれないですが、実際そういう委員でないと本当はいけないのだろうなということに大分気づかされる部分がありました。だから事務局の方々もそうやって委員の方々をうまく巻き込んでいるという意味で、うまい感じでコミュニティづくりができていけるのかなという気もします。それとは別にして、今回は条例に書かれているということで、3年ごとに条例の施行状況の検討ということですが、多分条例をどうするかという話に限定してしまうと非常に狭い話になってしまいますし、この委員会自体もそういうことだけをやる委員会ではないと思いますので、もっと広くいろいろな形での協働をもっと横浜の中に広げていこう、進めていこうということだと思います。ですので、これをいい機会ととらえて、またこれも初めての機会ですから、すべてチャレンジングなので、これで1回やってみて、このような形で3年おきに条例の見直しをしますということをしてこにしながら、常に市内のいろいろな協働の取組について再確認して行って、理念的なことも含めてもっと広く伝えていく、そういう場や機会をつくっていくことは大事かなと思います。

(治田委員) こういった条例等の議論を進めるのはすごくいいことだと思う一方で、これは私なりにもともとNPO支援の立場でこういうことを進めてきた一担当から申し上げますと、将来的には市民協働条例みたいなものがなくても、いろいろな意味で契約のところとかいろいろなところでそれなりの仁義が切り合えるような関係になればいいと思っていますのです。私どもは実際経済局さんのお仕事をいただきながら、かなり自由にやらせていただいているところもありますし、それによって成果を共有して次のステージに行くということもやっています。あと一方でもうちょっと広い目で見ると、共創なんかやっているフォーラムというか、共創の窓口がありますよね。そこは大手の企業さんが共創を推進する提案を持って行って、ある種協定を結ぶ形で関係を持つということですが、そのときは一切横浜市からは予算を取らないのだけど、その関係性ができたら、将来的にはちゃんと予算がつく仕組みになっているわけです。市民協働条例もそこまで行けばいいなと思います。目的がそっちになってしまうと違うのだけど、何だか「あなたと私はうまくいきましたね。こういうことができましたね。よかったね。」ではなくて、それによって今まで行政が握っていたいろいろな、例えば介護保険でいえば、介護保険というか高齢者福祉はすべて行政がやっていたけれども、市民に渡されたところでちゃんと今の優良NPOの多くは福祉とか介護とか福祉事業が多いわけですが、それぐ

らの関係性を持つぐらいのやりとりにならないと、何だか狭いなという感じがしております。そのあたりもこういうフォーラムなどを通じて議論できればいいなと思う一方で、市民のためのと言いながら、何か小さな既得権益を守るためのものになっているのだとすれば、そこはそうではない形にしていけないといけないし、それが実際どういうものなのかというのも共通認識がないままに、知っている人だけが議論するのもよくないと思います。だからそのあたりを広く知っていくときの呼びかけも工夫しないと、結局同じ人で議論しているようになってしまわないかということもあって、そのあたりの工夫の仕方をぜひやっていただければと思います。とにかく世の中はどんどん変わってきています。協働といっても、根性だけではだめだと言っている、アショカ・フェローに選ばれた日本環境設計の岩元社長という方が、今までリサイクル活動というのは根性でNPOをやってきたけれども、それでは結局続かなかつたよねと感じて、日本環境設計としては大手をとにかく落とすことで、しかも業界の垣根をとるとか、そういうことによって広く薄く利益を得ながら持続可能なものにしていくという、ダイナミックに社会を変えていくところに触れてきているのです。私は同じぐらいの活動をNPOはやるべきだと思うのだけど、どうもすごく小さくなってしまっていると思っています。大きな話をしたいわけではないのだけど、イメージしてもらおうという意味では何かいい事例を積み重ねていくきっかけになったらいいなと思います。

（時任委員）今治田委員がおっしゃったように、知っている人が、3年見直しだから見直すのだ、この3年待っていましたという人たちだけで議論するととても狭いものになって、この協働自体も協働という考え方も広がっていかないので、条例の見直しではあるのですが、協働を改めて広めるチャンスになるのではないかと思います。

（酒井委員）私も事前に事務局から御説明をいただいたときに、幅広いところに御意見をいただく、矛盾する考えなのですが、今まで条例の制定までに関わっていたところのプロセスを考えるととても丁寧につくられたところなので、そのところを考えていくともものすごく広く丁寧に今回の見直しも考えなければいけないなと思っています。先ほど御意見をいただいて、この間の中で条例だけの検討にしないところ、私もこう考えていたときに、協働そのものをさらに発展させるような検討ができたらいいなと思います。片や事務局の心配もしてしまうのですが、限られた時間の中であまり広い対象からの意見をまとめていくというのは、それはそれなりに大変な課題なのかなと思っています。

（小濱委員長）先回の議論を踏まえて、この市民等の意見をどう吸収するか部分がすごく膨らみましたよね。まずワーキングをつくりますよね。それからアンケートもやりますよね。それからホームページで意見収集もやって、締めくくりとしてフォーラムも開くという構えになっていて、これは事前に事務局から御説明いただいたときにも申し上げただけで、事務局的にはすごいパワーの要ることだなと感じ

じたところです。その中身については今皆さんがおっしゃったような感じなのですが、ぜひワーキングメンバーになれる方々は条例だけにこだわらないで、今ここで出たような意見に基づいて、協働のあり方から始まってどういう方法があるかとか、あるいは進むべきゴールは何かみたいな、そんなところまで広がっていきけるといいなと思います。それからこの市民局だけでないほかのセクションからの御意見も聞くことになっているのですが、横浜市は大きな組織だからその他のセクションがどのくらいこの協働に関心を持ってくれるのかというの私は心配しているところなのだけど、これを機会に市民活動支援課が中心になって他の課を巻き込んで、協働ということが広く横浜市で働く職員にもじわじわと広がっていかれるといいよねという期待も持っております。このスケジュールは、確かに事務局はタイトですが、6月、9月、12月の推進委員会もあるし、この委員会をうまく回しながら、また私たちも協力していきたいと思っていますところでございます。他に皆さんから御意見がなければ、今出た御意見を踏まえまして、条例の施行状況について検討を進めていただきますようお願いしたいと思っています。それからワーキングメンバーにつきましては、推薦されたい方などがいらっしゃいましたら、事務局に御連絡いただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

(事務局) 委員の皆さん一人一人真剣に向き合っているいろいろな御意見をいただきまして、どうもありがとうございます。これまでの間に、検討ワーキングを設置するという、それからこのプロセス自体を協働でやっていくこと、またフォーラムを開催していくこと、そういったこともすべて委員の皆様の御意見を踏まえた上でこちらで精いっぱい検討した結果であると思っています。次年度は、本当にタイトなスケジュールの中でワーキングを開催し、フォーラムをつくり上げ、その後も検証しつつ議会まで報告するというかたちになりますが、また委員会でもいろいろな御意見をいただければと思っています。条例をきっかけとした施行状況の検討ではあるのだけど、条例にとどまらない、これからの時代にふさわしい協働について考えていくという大きな機会になるのだと思います。私どもも精いっぱい力を尽くしたいと思いますので、ぜひ今後とも御協力をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

イ 平成28年度市民協働推進委員会での審議・協議事項について

(小濱委員長) では、続きましてイです。「平成28年度市民協働推進委員会での審議・協議事項について」、事務局から今のことも踏まえましてよろしく願いします。

(事務局) 資料により説明

(小濱委員長) ありがとうございます。ただいまの説明につきましてご意見等ございますか。それではこれで協議事項を終わります。

(3) 報告事項

ア 平成27年度協働の「地域づくり大学校」事業 事業報告について

(小濱委員長) 報告事項に入っていきたいと思います。アの「平成27年度協働の「地域づくり大学校」事業 事業報告について」、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 資料により説明

(小濱委員長) ただいまの御説明につきまして、何か御質問等ございましたら、お願いします。

(時任委員) 資料ですが、南区のところで、人数が逆になっていると思いますので御確認ください。

(事務局) 失礼しました。訂正いたします。

(中島委員) ありがとうございます。各区で多様な取り組み方をされていて、恐らく地域の実情に応じた運営体制がとられているのではないかと考えております。その後の資料にある、各区で取り上げられた先進事例ということで、他の区の事例を学び合う機会というのはすごくいい機会かなと思いました。あと、もしお分かりだったら、各区の取組は、先ほど指摘させていただいたように、取組によっていろいろと、例えば社会福祉協議会が関わっているところなどもあると思うのですが、それぞれの取組主体によっての特徴みたいなもの、もしくはそういう取組主体になっている地域の状況みたいなものが何か特徴的なことがあれば教えていただければと思います。

(事務局) 各区の取組状況は、例えば南区の場合はわりと地域課題を明確化されているような地域で、それについて取り組んでいこうということ、寺子屋みなみとして課題を解決するためにやっぴこうというのが1つ。南区さんはもう一点あって、今時任委員にやっぴいただいているのですが、広く区域の方をとらまえてつながりをつくっていただくという形の取組ということで、2本立てで行っています。そういった意味で、南区ではどちらのパターンがいいのかということも検証しながら進めているところもあれば、先ほどお話があったとおり、青葉区の場合は、学校連携というように生涯学習の色が強いのですが、そういった取組を進められているとか、あとは自治会町内会が絡んでいらっしゃるようなところであれば、自治会町内会の担い手づくりに視点を置いたりという取組を進められているところもあります。

(時任委員) 確かにいろいろなところで伺っていたのですが、この事業は地域づくり大学校事業というのですが、講座の名称が各区の特徴が出ています。例えば港南区の学び舎ひまわりとか。ただ、地域づくり大学校という名前が、市民セクターよこはまさんが担い手にならないと使えないというふうに伺ったことがあるのですが、そのあたりはどうなのでしょう。

(事務局) もともとこの事業は、よこはま地域づくり大学校ということで、市民セクターさんが考えられたスキームがあるので、その部分をきちんとやっているとこ

る、特に市民セクターよこはまさんと一緒にやっていたところについては地域づくり大学校の名称を使っていたいております。ただ、区によって考え方が少し違ったりしており、進め方のところについては、区独自性を活かした形での名称を設けるとかという形でやっております。

(小濱委員長) 私から問題提起と情報だけですが、国の国土交通省がやっている風景街道の検討委員会というのがあって、私はそちらの委員長もやっておりますが、横浜では保土ヶ谷区がそういったことに随分熱心に続けられていらっしゃいますよね。ぜひこういうのを巻き込んでいただきたいというのが1点です。もう一つは問題提起ですが、2020年にオリンピックがありますけども、私が気にしているのはパラリンピックの方で、恐らく前の年とか前の前の年ぐらいから障害を持った方々がたくさんいらっしゃると思います。それが絶対に東京だけではオーバーフローしますので横浜にもいらっしゃるでしょうから、こういった外国の方で、しかも障害を持った方々に対してどのようにケアしていくのかとかいうか、向き合うかというところと大げさだけど、どうするかというのを熱心にやっているNPOが結構あると思います。横浜移動サービス協議会なんかもその1つかもしれませんが、この地域づくり大学校の講座の中身としても、特に障害を持った方々にどう対応するかというのも1つテーマに今後考えていただけるといいなと思いましたが、お願いしておきます。

イ 特定非営利活動法人に関する基礎調査実施結果について

(小濱委員長) では続きまして、イの「特定非営利活動法人に関する基礎調査実施結果について」、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 資料により説明

(小濱委員長) どうもありがとうございました。大変な力作だと思います。これにつきまして何か御質問・御意見等がありましたら、お願いします。

(治田委員) 赤がちょっときついカラーだと思います。あまり報告書では見たことがないと思いますが、内容的には全く異論はございません。

ウ 認定特定非営利活動法人への勧告に対する報告について

(小濱委員長) では次に移りたいと思いますが、ウの「認定特定非営利活動法人への勧告に対する報告について」、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 資料により説明

(小濱委員長) ありがとうございます。ただいまの説明につきまして御質問等はございますか。

エ 答申後の取組の周知について

(小濱委員長) 続きまして、エの「答申後の取組の周知について」、事務局から説明

をお願いします。

(事務局) 資料により説明

(小濱委員長) ただいまの説明につきまして御質問等がございますか。資料9-2のパンフレットは非常によいと思います。かわいいですね。余りしつこくないし、くどくないし、とても見やすくなったと思います。

(4) その他

(小濱委員長) それでは、以上をもちまして全ての議題が終了いたしました。全体を通して、何か皆さんから御意見などございましたら、お願いします。

(松村委員) 全体を通してとは少し違うのですが、先ほど組織基盤強化助成金がよかったですねと自画自賛的になってしまったのですが、それは関わっている者がある意味関わっているゆえの甘さかもしれないので、ぜひそれを冷静に客観的に評価して分析していただきたいと思っています。これから報告書も上がってくると思うのですが、それをどういう機会でどんなふうにして次に活かすか、見直しに活かしていくかということについて、何かもし御計画があるのであれば教えていただきたいです。

(事務局) 御意見どうもありがとうございます。申し訳ありませんが、そういう視点ではまだ捉えておりませんでした。助成金ですので、1年間30万円分使った領収書を添えて御提出いただいて、清算、それで年度の事業は終わるというふうに正直なところ思っていたところです。ただ、とても大切な視点だとは思っておりますので、今後どういう活用ができるかとか、今後につなげていくことができる可能性は十分あると思いますので、今の御意見をいただいた上で検討したいと思います。

(松村委員) 結構この形の助成金は意外に、アウトプットは見えにくいし、アウトカムは一体何なのかといったときに、先ほどのコミュニティカフェの可視化という話もありましたが、それをどうやって具体的に他の方々にも、場を共有している人たちにはよかったねと、特に意見交換会なんかは本当に素敵な会だったと思うのですが、そこにいる方だけでは済まない話だと思いますので、それは何かの形にして市民の人たちにも伝えていくことが必要かと思っています。何か特別な案があるわけではないのですが、ネガティブにしたいというのではなくて、むしろあそこですごくポジティブなものがあつたと私は信じておりますので、それを伝えていくことを、どんなふうにしてやったらいいのかなという、問題提起という形なのですが、ぜひ何か御検討いただければと思います。

(事務局) どうもありがとうございます。私自身も組織基盤強化事業を進めるにあたって、規模とか中身は断然優れているのですが、パナソニックさんの似たような取組をととても参考にさせていただいております。その際に参考になるのは、ワークショップ形式でこの組織基盤強化助成金をもらって、どんな取組をして、どんな成

果が出たのかみたいなことが結構ホームページで紹介されていたりするのを拝見して、それを事業に反映されたり、ヒントを得たりという、そういう経験がございます。それと同じようにできるかどうか分かりませんが、ぜひそういう見える化、可視化をすることで、助成金を受けていない団体のヒントになるような仕組みも貴重かもしれないと思いますので、真摯に受けとめ、今後検討していきたいと思えます。ありがとうございます。

（小濱委員長）ありがとうございました。この委員会がやっていることは、協働という考え方では日本最先端だと思っているのです。そういうのは市民活動支援センターさんたちのアニマートとかを通じて間接的には広まっているのだけど、もっと行政として自信を持って前に出してもいいかなというのはありますよね。今の御指摘も含めて、他の市町村の参考になると思いますので、ぜひ前へ出してやっていきましょう。

（治田委員）今に関連するのですが、30万円の組織基盤強化助成は、10件のものですよね。お金を出すのはいいのだけど、場合によっては成果の共有に機会をつくらいいのではないかと思うのです。私たちも、先ほど言った神奈川県のお金でボランティア活動、団体成長支援事業の中でボランティアエースプログラムというのをやりました。その最後に、中島委員にもいらしていただきましたが、10団体が発表して、みんなそれぞれ成果をたたえ合ったり、プロセスを共有したりとかということがあったのです。今後こういうものに参画したい人も「あ、これってこういうものなんだ」というのが分かったり、そういう広く共有する場があると多分違ってくるのかなと思います。今のだと多分30万円を使ったら終わりみたいになってしまうかもしれないので、みんなが発表するのもまた大変だとすれば、3団体でもいいので、それをちゃんと評価するみたいなことをやってもいいのかなと思っています。そうするとまたイベントがふえるので大変だなとは思いますが、ただ成果を公表する、委員だけが知っているとかではなくて、そういうのもあっていいのかなと思いました。意見です。

（時任委員）補足なのですが、先ほどもあったのですが、情報交流会をやっています。そこでは、組織基盤助成金を受けた全ての団体さんが来て、自分たちの事業をやって、「こんなところが今うまくいっているよ」「こういうところが気がつかなかったのが気がついたよ」ということを話し合い、他の団体さんに質問の後にエールを送るということで、今治田委員が言ったたえ合的な部分があるのです。それで自分たちの団体の自己評価を一度やってから来ていますので、そういう意味では他の団体のことも意識して考えることができましたので、いい場になったのだなと思いました。同じ事業を受けて、それぞれの団体が自分たちも頑張ろうと思って、よりよい活動にしようと思って、あと共有体になってとか、みんな一緒に「自分もよくなる、あなたも頑張る」みたいな、そういう一体化ができた交流会だと思っています。報告会とまたちょっと意味合いは違うのかもしれませんが、そう

いう意味では交流会もよかったです。

(事務局) 実はその情報交換会というか、意見交換会は当事者でない方も自由に参加できて、呼びかけてもいたのです。その中には今年度や平成28年度の取組に手を挙げてくださった団体も2つ、3つ入っていらっしやいます。なので、次にはつながるといふ工夫はできたのですが、恐らく圧倒的に事前の周知とか、この交流会の位置づけがとても参考になるという情報発信が弱かったのだと思っています。そういうところも次につなげる反省点だと思っています。ありがとうございました。

(小濱委員長) それでは閉会する前に、酒井委員が3月31日をもちまして退任されると伺っております。最後に一言御挨拶をいただきたいと思ひます。

(酒井委員) 貴重なお時間をちょうだいして恐縮です。定年制はあるのですが、本来の定年は来年だったのですが、いろいろな事情がありまして、このたび社会福祉協議会を退職することになりました。別の形で福祉には関わることにはなるのですが、こちらの委員会の委員としては今年度で終了させていただくことになりました。就任のときにも冒頭で御挨拶をさせていただいたのですが、社会福祉協議会がやっている活動の水準というか、私たち事務局の職員ということではなくて、地域の活動自体が地べたをはうようなという表現をさせていただきましたが、そういう感じで展開されているので、この委員会に参加させていただくと、水準の差をまざまざと思い知らされている思ひがありました。ですが、同じ市民なのでどこかにつながるものが当然あるわけですし、そこを何とか埋めるようなことも、本来は委員としては失格で、先ほど松村委員から、委員会委員としてどうやってここに貢献できるかというところを考えなければいけないとおっしゃっていましたよね。私はどうもこの委員会に参加して、自分のところの仕事にお土産ばかりもらって帰ったなという思ひがします。ただ、その中でも少しいくつか形になったところで、ほんの少しかもしれませんが、参画させていただいたところを誇りに思ひたいと思ひます。今後も一市民として、この市民協働の動きについては注目させていただければと思ひます。2年間、短い期間でしたが、お世話になりました。ありがとうございました。

(事務局) では、市民協働推進部長から感謝状を酒井委員にお渡しさせていただきたいと思ひます。

(小濱委員長) 酒井委員、お疲れさまでございました。ありがとうございました。

それでは最後に事務局から連絡事項をお願いいたします。

(事務局) 来年度の委員会の日程についてですが、別途事務局から日程の調整をお願いさせていただきたいと思ひしております。大変お忙しい中ですが、来年度もどうぞよろしくをお願いいたします。

### 3 閉会

(小濱委員長) それでは、これにて第2期第4回の市民協働推進委員会を閉会いた

	<p>します。今日はどうもありがとうございました。</p>
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1 : 特定非営利活動法人の条例指定について</li> <li>・資料1-2 : 申出法人の概要</li> <li>・資料1-3 : 申出法人の指定基準適合表</li> <li>・資料1-4 : 申出法人の公益要件に関する適合について</li> <li>・資料2-1 : 横浜市市民活動支援センター事業の検証について</li> <li>・資料2-2 : 横浜市市民活動支援センター運営事業部門（特定非営利活動法人市民セクターよこはま）</li> <li>・資料2-3 : 横浜市市民活動支援センター自主事業部門（特定非営利活動法人アクションポート横浜）</li> <li>・資料2-4 : 横浜市市民活動支援センター自主事業部門（特定非営利活動法人エティック）</li> <li>・資料2-5 : 横浜市市民活動支援センター自主事業部門（横浜コミュニティカフェネットワーク）</li> <li>・資料2-6 : 横浜市市民活動支援センター事業評価基準</li> <li>・資料3 : よこはま夢ファンド団体登録及び助成金交付審査結果について</li> <li>・資料4-1 : 「横浜市市民協働条例」3年ごとの施行状況の検討の進め方について</li> <li>・資料4-2 : 「横浜市市民協働条例」3年ごとの施行状況の検討スケジュール</li> <li>・資料4-3 : 横浜市市民協働条例に関する検討ワーキング設置要綱（案）</li> <li>・資料5 : 平成27年度 市民協働推進委員会での審議・協議事項について</li> <li>・資料6 : 平成27年度 協働の「地域づくり大学校」事業 事業報告</li> <li>・資料7 : 平成27年度 特定非営利活動法人に関する基礎調査について</li> <li>・資料8 : 勧告に対する報告書</li> <li>・資料9-1 : 「公共的又は公益的な活動及び事業」の考え方に関する横浜市市民協働推進委員会への意見聴取事務取扱要綱</li> <li>・資料9-2 : 横浜市が協働を進める際の「公共的又は公益的な活動や事業」の考え方について～よりより協働をすすめるために～</li> </ul>